

<p>学校教育目標</p>	<p>社会を生き抜く自立した児童・生徒 ～やりぬく姿はかっこいいGRIT～</p> <p>○自ら考え、節度ある正しい行動のできる生徒(規律) ○将来に向かって希望や目標をもって前進する生徒(感動) ○思いやりの心をもって共感し、尊敬しあえる生徒(敬愛)</p>				<p>総合評価</p>	
<p>運営方針</p>	<p>○基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力を身につけさせると共に、主体的に学ぶ意欲と態度を育てる。 ○人権が尊重される社会や地域を築く人間の育成を目指すとともに、生命に対する畏敬の念をもって、互いに信頼と協力を深める。 ○自然や伝統文化を大切に、美しいもの・崇高なものに感動する豊かな情操を養う。 ○規律ある生活を重んじるとともに、基本的な生活習慣を身につけさせ、たゆみなく自らを高めようとする意欲と実践力を養う。 ○健康・安全に留意し、活力ある生活ができる逞しい身の育成に努める。 ○職場体験学習や修学旅行をはじめとする諸活動や行事を通じてキャリア教育を推進し、キャリアパスポートの充実を図る。 ○いじめを許さない態度を育てると共に、未然防止、早期発見、組織的な対応に努める。</p>					
<p>令和5年度の成果と課題 (○成果 ●課題)</p>	<p>本年重点目標</p>		<p>具体的目標</p>			
<p>【学習指導】 ○「読解力の向上」をテーマに、小中合同研修を3回、研究授業を2回行い、指導案検討も小中合同で行うことができた。 ●学力に課題があり、家庭学習がなかなか定着しない生徒に対する取組をより一層進めていく必要がある。「すららドリル」を昨年以上に活用して、学力向上に努める。 【生徒指導・安全指導】 ○支援が必要な生徒について、小中が情報交換を密にしながらい進めることができた。 ●危機管理という点で、あらゆる対応の訓練を計画し実行していかねばならない。 【道徳指導・特別活動】 ○月1度の専門委員会を行い、生徒発信で活動する機会ができ、主体性が育った。○生徒の実態や社会的な問題も踏まえ、授業内容を考え、生徒が自ら振り返り、課題意識や目標を持てるようにした。 ●12月のアンケートで、「地域が好き」と答えた生徒が60%だった。地域を愛する子どもの育成に努めなければならない。 ●具体的方策の部分には、数値目標を設定していく。</p>	<p>○確かな学力 - 基盤的学力の習得-</p>	<p>学校行事等を精選したり、工夫したりすることによって、授業時間数を増やす。わかりやすい授業を実践する。また、学力定着のため、家庭学習の習慣を定着させる。 「読解力の向上」をめざし、小学校との合同の職員研修を進め、各教科の指導力の向上に努める。</p>	<p>B</p>			
<p>○豊かな心 - 対人関係構築力の育成-</p>	<p>地域行事に積極的に参加したり、地域の人々との交流を深めたりする中で地域の教育力を活用しながら、ふるさとを愛する生徒を育てる。 「あいさつができる児童・生徒」を育てるとともに、対人関係構築力を育成する。</p>	<p>生徒の規範意識を高めるとともに、よりよい生活習慣が身につくよう取り組む。</p>				
<p>○健やかな体・安全 - 体力の向上と健康意識の醸成-</p>	<p>危機管理に関する研修の充実を図る。また、関係機関との連携を強化し、SC・SSWの有効な活用を進めていく。</p>					
<p>評価項目</p>	<p>具体的目標 (評価小項目)</p>	<p>具体的方策・評価指標</p>	<p>自己評価結果</p>	<p>成果と課題(評価結果の分析)</p>	<p>改善方策等</p>	<p>学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策</p>
<p>学習指導</p>	<p>確かな学力を身につけ、進路を切り開くためにやり抜く力を育てる。</p> <p>小中一貫教育を進め、小中間の連携強化のための合同研修や共通の目標を設定する。</p>	<p>タブレットの活用をはじめとして生徒がより深く学ぼうとする姿勢をすべての教科で促す。教師もICT機器の活用により生徒の理解を深められるようにする。そのことに対する生徒の認知度を85%以上に高める。</p> <p>基礎学力の定着を図るために、すららドリルの定着を見据えセレクトタイムを実施し、全校体制で取り組む。また、タブレットの活用により、学習意欲を向上させ、家庭学習を生徒自ら積極的に進めるようにする。家庭学習時間ゼロを10%以下にする。</p> <p>特別支援教育では生徒の実態に合わせて3教科において少人数クラスおよび5教科での個別ないしは2名の授業、4教科でのT.T.の活用により個別支援の充実を図っていく。通級指導教室においても同様に生徒指導上配慮しながら週あたり2/3ないしは、1/4と2/4など現状において可能な限り個別支援の充実を図る。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>生徒はタブレットを活用する場面が多く見られた。教師がICT機器の使用についてテストに活用するなど評価が容易になった点も多くあったが、生徒の認知度に変化が見られなかった。</p> <p>校時にセレクトタイムを組み込み全校体制で取り組んだ。夏休みにかけて家庭学習する機会が持たない本校独自で、とにかく多くログインすることを目指した「ログイン合戦」を催し優勝クラスを表彰した。秋の学習スタジアムでは10人中5人の表彰を受けることとなった。</p> <p>特別支援教育では国数英の3教科を中心に取り出し授業を行った。4教科ではT.T.を行った。通級では週あたり1ないしは2時限、少人数による授業を行った。ただし、少人数でも学力差が見られるので指導については工夫が必要と考えられる。</p> <p>読解力を軸にした研究授業「理科」を実施した。NIEの取り組みは最終年度を迎えた。1年生では発表会をした。2年生では能登の震災を取材した記者から話を聞きまともな学び『人と未来防災センター』を訪れ防災新聞を作成し掲示した。読解力について、自ら取り組もうとする力が足りていない。読もうとする力が育っていない。</p> <p>英検実施は1回のみとなった。グリーン活動は天候不順のため延期の末、中止となった。牧小6年生と生徒会役員による挨拶運動を実施した。本校合唱コンクールには牧小5年生が参加し2曲披露してくれた。</p>	<p>生徒のタブレットの使用については丸写しや答えを聞く道具となっていないか、常に目的意識を掲げていかなくてはならない。生徒の学習以外での使用を遮断するシステムを市外では導入していることも傾聴に値する。</p> <p>今後とも読書できる環境や本に親しみが持てる環境を作り生徒が主体的に取り組もうとする力を育みたい。</p>	<p>・タブレットの活用は良い面もあるが、成果を上げるための使用になってはいないか。生徒にとって学習意欲が向上したり受験につながるような利用方法になるのが理想的である。 ・読むとともに書く事を大切にしたり取り組みを進めると良いのでは。 ・小中の交流が進むのは良いことなので継続して欲しい。 ・天候に左右されない行事があると良いと思う。給食を一緒に食べたりするようなものでも良いかも</p>
<p>生徒指導・安全指導</p>	<p>生徒が安心して安全な学校生活を送ることができるようにする。</p> <p>体力の向上と健康意識の醸成に努める。</p>	<p>職員の危機管理意識を高め、校内での事故発生時の動きを研修などの機会を設け、確認する。今年度、地震に伴う火災を想定した避難訓練を年間2回実施する。</p> <p>生徒の規範意識を高める取り組みとして時間、校則を守ると意識を持たせる。欠席遅刻の人数を減らせるように指導を行う。</p> <p>体育の授業を通じて多様な運動技能を身につけていく。保健の授業や保健だよりで生活習慣の改善について伝える。</p> <p>SCやSSWの有効な活用を進め、個別のケース会議などを随時取り入れ、職員間で共有する。年間1回はスクリーニング会議を行う。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>危機管理マニュアルを更新し、職員全体で共通理解を図ることができた。地震に伴う火災を想定した避難訓練を実施することができた。また教員も生徒も定着とまではいかないので繰り返し行っていく。</p> <p>少しずつではあるが時間や校則を守れるようになってきた。長期欠席者数は昨年の24人から18人に減少した。今後も継続して欠席遅刻者を減らしていきたい。</p> <p>体育大会では5年ぶりに集団演技を実施することができた。それにより我慢強さやしなやかさが身についた。長距離走をふりかえってみると、粘り強く頑張ることができる生徒が増えてきている。</p> <p>SSWとはうまく連携できスクリーニング会議を行えた。来年度はSCとも連携できるようにしていきたい。ケース会議を随時行う事によりSSWからの確かなアドバイスをもらうことができた。生徒の情報共有につながっている。</p>	<p>危機管理についての研修をいれていく。次年度は危機管理という点であらゆる対応の訓練を計画し実施していかねばならない。</p> <p>保健体育の授業を通して繰り返し健康意識を高めるような指導を行っていく。また、心の健康についても関係機関とともに子ども一人一人に寄り添った指導を行っていく。</p>	<p>・校則が守れるようになってきたのは、先生方の日々の声かけの成果だと思う。 ・校則を生徒の意見を取り入れたものに修正していったことが、少しずつではあるが生徒の自主性を高め、自律につながっていると思う。</p>
<p>評価項目</p>	<p>具体的目標 (評価小項目)</p>	<p>具体的方策・評価指標</p>	<p>自己評価結果</p>	<p>成果と課題(評価結果の分析)</p>	<p>改善方策等</p>	<p>学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策</p>
<p>特別活動・道徳教育</p>	<p>集団や社会の形成者として他者や地域とつながり、共に自らも成長していく態度を育てる。</p> <p>特別の教科 道徳の授業の充実と共に、実践できる生徒を育てる。</p>	<p>学校行事や生徒会活動において、生徒発信で活動する機会を通して生徒の主体性を育てる。また、学校アンケートにおいて、「学校行事に積極的に取り組んでいるか」・「委員会活動・係活動等に積極的に取り組んでいるか」を90%以上を目指す。</p> <p>牧野小学校と合同で行う清掃活動を通して、地域の環境美化に貢献する。また、福祉体験や職業体験等を通じて地域の方とのつながりを持たせる。</p> <p>道徳の授業で、意見や考えを多く出させ、学校アンケートにおいて、「友達の意見や話し合いから新しい発見や気づきがあったか」を75%以上、「自分の考えを深めることができたか」を80%以上を目指す。</p> <p>体験活動の充実を図るとともに、体験活動と道徳の時間とを関連づけた指導を進める。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>体育大会や合唱コンクールなどの行事は従来通りの形で行うことができた。委員会活動においては、行事の運営・準備等に加えて、清掃道具の点検や学年文庫の準備など、生徒が主体的になり学校の環境をよりよくする活動ができた。</p> <p>牧野小学校と合同で行う清掃活動は今年度行うことができなかった。職場体験では、地域の方々との交流や、地域で行われていることについて知ることができ、つながりを深めることができた。</p> <p>学校アンケートにおいて、「友達の見聞や話し合いから新しい発見や気づきがあったか」は79.3%、「自分の考えを深めることができたか」は80%であり、昨年よりも高まった。道徳の授業での気づきを、日常生活にも活かしていきたい。</p> <p>今年度も関係機関と連携して福祉体験学習や職場体験学習、校外学習等さまざまな体験活動を行った。体験活動前後に、体験に関連した内容を扱った。体験活動、道徳の授業を日常生活に結びつけ、道徳の実践意欲を高めていきたい。</p>	<p>委員会活動や学校行事の準備や運営にあたって、生徒が主体的に活動できるように、より良い学校環境づくりをしていくためにどのようなことができるか考える機会を増やす。また、保護者・生徒アンケートで85%以上が学校行事について肯定的な回答をしているので、来年度は90%を目指す。</p> <p>引き続き生徒の実態を踏まえて、授業内容を考え、自らを振り返り、課題や目標を持てるようにする。 教師が現状の課題について共通意識をもって生徒の指導にあたる。</p>	<p>・生徒主催のスポーツ大会のような、主体的な活動が出来たのは良かった。 ・自分達で作上げる意欲・達成感が味わえる活動を下級生にも伝えていって欲しい。 ・体験活動で得られる経験は貴重である。今後も継続を</p>
<p>働き方改革</p>	<p>個々の超過勤務時間をできる限り少なくしていく。</p>	<p>・業務支援員を効果的に活用し、少なくとも連続した複数月に80時間を超える超過勤務者を出さないようにする。</p>	<p>B</p>	<p>業務支援員に授業用プリントの印刷等、また行事等の準備を支援してもらうことで、生徒と向き合う時間を確保できたり、勤務時間の短縮につながっている。</p>	<p>部活動の時間が職員の超過勤務にかかる割合が高いため、なかなか進まないのが現状であるが、今後地域移行がなされればより改善が進むと思われる。</p>	<p>部活をやりたい先生もいると思う。地域移行は難しそうに思う。</p>
<p>今年度の成果と次年度への課題</p>	<p>【成果】 ○「読解力の向上」をテーマに、小中合同研修を3回、研究授業・研究協議を2回行うことができた。指導案検討も小中合同で行うことができた。 ○体験入学を各担当に交えて詳細な打合せをして行うことができた。 ○タブレットを使った授業や「すららドリル」や「ドリルパーク」を課題とした取り組みができた。 ○支援が必要な生徒について、小中が情報交換を密にしながらい進めることができた。 ○専門委員会を月に1度定例化し、生徒発信で活動する機会を定着させた。生徒会主催の行事を開催できた。 ○スタントチームの実演による交通安全教室を実施した。</p>				<p>【課題】 ●学力に課題があり、学習に取り組もうとする意欲を高める必要がある。家庭学習の定着に向けても一層努力が必要である。 ●「すららドリル」「ドリルパーク」の活用機会を増加するように努め生徒個々の学習実態に合わせて取り組もうとする力を育みたい。 ●危機管理という点で、あらゆる対応の訓練を計画し実行していかねばならない。教師や生徒も繰り返し訓練を行い、定着を図る。 ●地域を愛する子どもの育成に努めていきたい。 ●業務や分掌を見直す中で、働き方改革を進めていかねばならない。 ●具体的方策の部分には、アンケート結果を踏まえた数値目標を設定していく。</p>	